令和二年度 大学入試センター試験概況分析

二〇二〇年度大学入試センター試験は一月一八、一九日の両日に行われた。二〇二〇年度センター試験の志願者数は五五万七、六九九人（前年度比九六・七％）、本試験の外国語受験者数は五一万九、三〇三人（同九六・四％）といずれも減少した。二〇二一年から始まる大学入学共通テストを前に二〇一九年度入試から安全志向がみられ、既卒生は減少している。

大学入学共通テストを翌年に控え、出題傾向の変化も注目されたが、全体的にはこれまでのセンター試験の傾向を踏襲した出題だった。ただ、「国語」の漢文では、本文中で詠まれた状況に即したイラストを選択させるといった新しい形式の設問がみられた。対話形式や日常の事象からの出題、複数の文章や図表などから考察させる問題など、大学入学共通テストを意識した問題も各科目で出題された。

河合塾が実施した自己採点集計「センター・リサーチ」参加者の平均点集計によると、二〇二〇年度センター試験の特徴は「英語」「数学」「国語」の主要三教科で平均点が下がったこと。特に七・七点ダウンとなった「数学Ⅰ・A」は、複雑な設定で解答方針が立てにくい問題や参考書などであまり見かけない問題が出され、苦戦した受験生が多かったと推察されるという。

理科①は、「化学基礎」「地学基礎」で平均点がダウン。理科②は、「生物」「地学」でダウンした一方、「物理」でアップ。「地歴・公民」は科目間に差はみられるものの、「世界史B」「倫理、政治・経済」の四科目は平均点が六五～六八点と大きな差はなく、科目選択による不公平感はほとんど感じられなかったという。

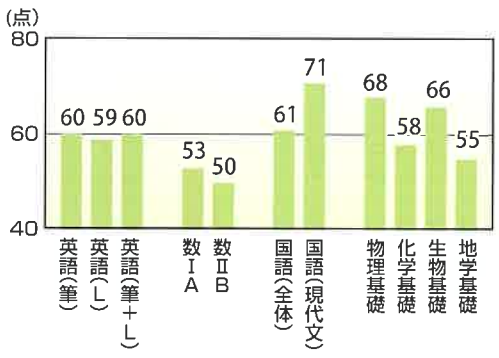
七科目型の受験者平均点は、文系が前年から二二・〇点減の五五九・一点（九〇〇点満点）、理系型が前年から一九・二点減の五六四・四点（同）と、どちらも大幅に下がった。成績分布では、文系型・理系型いずれも左型にシフトし、高得点層が減少している。

（河合塾　Kei－Netより抜粋）

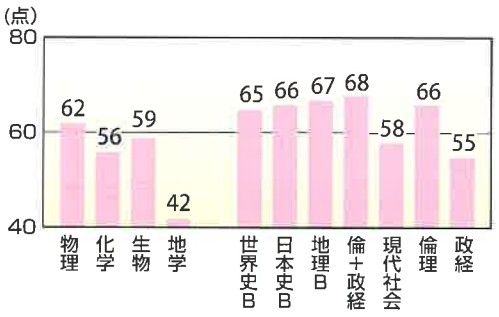
◆「センター・リサーチ」参加者　主要科目・総合型平均点

教科・科目			昨年	今年	差
外国語		英語（筆記）	126.5	119.7	−6.8
		英語（リスニング）	32.0	29.4	−2.6
		英語（筆記＋リスニング）	127.1	119.5	−7.6
数学	①	数学Ⅰ・数学A	61.1	53.4	−7.7
	②	数学Ⅱ・数学B	54.3	50.1	−4.2
国語		国語（全体）	123.9	121.7	−2.2
		国語（現代文）	68.9	70.9	+2.0
理科	①	物理基礎	31.7	34.1	+2.4
		化学基礎	31.9	29.1	−2.8
		生物基礎	31.7	32.9	+1.2
		地学基礎	30.2	27.7	−2.5
	②	物理	58.6	61.5	+2.9
		化学	55.7	56.2	+0.5
		生物	63.6	59.0	−4.6
		地学	47.7	41.7	−6.0
地歴・公民		世界史B	66.8	64.5	−2.3
		日本史B	64.7	66.4	+1.7
		地理B	62.4	66.6	+4.2
		倫理政治・経済	65.7	68.1	+2.4
		現代社会	57.4	58.2	+0.8
		倫理	62.8	66.3	+3.5
		政治・経済	57.0	54.7	−2.3
総合		７科目文系型	581.1	559.1	−22.0
		７科目理系型	583.6	564.4	−19.2

※７科目文系型：外・数（２科目）・国・理・地公（２科目）
※７科目理系型：外・数（２科目）・国・理（２科目）・地公



※英語・国語（全体）・理科①は100点満点に換算



本当の敵は…自分！

第三学年主任　豊田　浩美

令和二年度の幕開けは、目に見えない敵、「COVID19」という感染ウイルスとの戦いからスタートしました。ただでさえ、戦わなければならない敵が多い学年だというのに…。大学入学共通テストという新しい入試形態が導入され、推薦・AO入試の時期も秋の終わりと遅くなり、大学に提出する「調査書」の様式も変わるという二重苦三重苦。加えて、前年度の三月も突然の休校措置で、各教科・科目のまとめも十分にできないまま新年度を向かえました。先行きが不透明すぎて、明日が保証されないまま三年生が始まるということは、我々にとって不安でしかありません。

皆さんは、「行ける大学」と「行きたい大学」のどちらに行きますか？現代は「偏差値に選ばれて大学へ行く時代」だと言われています。自分の行きたい大学をどうやって選べば良いか？「自分を伸ばしてくれる大学」「自分の可能性を広げてくれる大学」こそ、進むべき方向だと私は考えています。こんなご時世だからこそ、「弱音を吐かず、能動的な姿勢で学ぶこと」が必要です。大事です。ただ暗記するだけの学習方法では、長続きしません。常に何故？という疑問を持ち、知恵を絞って解決することで、「心の自由」は保たれます。高い目標を掲げ自分のできる最大限の努力を惜しまないでください。新入試に必要な「物事を深く考え、的確に表現する力」を身につけられたなら、今までの自分を脱却できた証明になります。

自分の意思のなさが、「落ちこぼれ」る原因だと言われています。昨年度一年かけて行った「探求活動」では、地域を牽引する役割を担う皆さんにふさわしい「いわき市政への提言」を自分の将来学ぶべき分野から考察し、様々な視点から郷土を思いやりました。どの人の探求活動も素晴らしく、「意思のあるところに道は開ける」という確信を得た思いがしました。この提言が「絵に描いたもち」に終わらないように、大学に行ってより一層知識・教養を深めて、地域に貢献してくれることを願っています。

「自分を変えろ！」得意科目に頼ることなく、果敢に苦手科目の克服に努めることで、一回りも二回りも大きくなった自分を実感できるように、三年生の一年間を過ごしてみてはどうですか。苦手な物を好きな物に変えてみる（例えばゲームが好きなら、英単語をカードゲームにしたり、マジカルバナナを英単語で競ってみたり）のも、ひとつの方法です。自分の間違えた問題を「復習」ならぬ「復讐ノート」に書き殴って、憎しみを込めて覚えるのも斬新ですよね。もう皆さんの戦いはとっくに始まっています。毎年春になると季節を忘れずに、何があっても満開に咲き誇っている「桜の花のぶれない強さ」を見習ってください。結果の出ないことを人のせいにすることなく、本当の敵は「COVID19」でも、隣の席の受験生でもない、自分自身の弱さだと早く気づいて、己に勝ってください。信じられるのも自分だけです。辛く苦しい戦いの先には、勝利を手にした満面の笑みの自分が、夢の懸け橋の上に立っている姿が見えますか？

努力に勝る才能なし

第一学年主任　今村　義泰

二〇二〇年四月、いろいろな意味で記憶に残る高校生活がスタートしました。新型コロナウィルスという目に見えない恐怖に不安を抱えながらですが、今できることに全力を注ぎましょう。創立百十六周年目を迎える磐城桜が丘高校で、皆さんがこれまで先輩方が培ってきた伝統を受け継ぎつつ、新たな歴史を築いていってくれることを期待しています。

入学式に先立ち、四月三日に合同学習会が行われました。本来であれば二日間実施し、進路手帳の活用のほかに国語・数学・英語の教科オリエンテーションを実施する予定でした。高校では、中学校と比べて授業の進度が速くなるので、当然学習内容の予習が必要になります。特に国・数・英の主要三教科は、成果が出るまでに時間がかかるため継続的な学習が求められます。少しでも早く自分に合った予習→授業→復習のサイクルを会得しましょう。その際に助けとなるものが進路手帳です。進路手帳を有効に活用し、時間を上手に使い、自己管理能力を身につけてください。

さて、皆さんの多くが将来の夢や希望を叶えるために本校に入学してきたと思います。その大部分の人たちの目標が大学進学だと思います。夢を実現するためには将来の自分を想像して、具体的な目標を定めて努力していくことが大切です。では、来るべき大学入試に向けて何をすればよいのでしょうか。まずは土台となる学力を身につけることです。そのために欠かせないのが普段の授業です。授業を大切にできない者に成功への扉は開きません。一年生では、基礎学力の定着を最大の目標に努力してください。

今年度から大学入試が大きく変わります。大学が求める人材に必要なものは学力だけではありません。部活動や委員会活動、ボランティア活動、そして多くの学校行事に積極的に参加し、自分の世界観を広げて人間力を成長させてください。

これからの高校生活において、「勉強したのに思ったように成績が上がらない」「一生懸命練習したのに試合やコンクールで結果を残せない」など、上手くいかないこともあるかもしれません。しかし、結果がすべてではありません。目標実現に向けて努力をし続けることが何よりも大切です。磐城桜が丘高校は皆さんの頑張りを全力でサポートします。

最後に、夢の実現のために努力してほしいことをいくつか挙げます。一つでも多く達成してくれることを期待しています。

①あいさつをしっかりと交わし、人間関係を大切に！　②礼儀を重んじ、真摯な態度で！　③人の話に耳を傾け、謙虚な態度で！　④時間を守り、規則正しい生活を！　⑤規則を守り、集団の輪を大切に！　⑥美化に努め、清掃活動や整理整頓をしっかりと！　⑦日々の授業を大切に！　⑧毎日の家庭学習を！　⑨部活動や委員会活動、体験活動等には積極的に！　⑩学校行事には全力で！　⑪桜が丘生としての誇りと責任を！　⑫目標実現に向けて最大限の努力を！

5教科の勉強を軌道に乗せろ！

第二学年主任　川島　仁

生徒諸君へは一年生最後の学年集会で、保護者の皆様には三月の学年便りでお伝えした内容、とても重要なので繰り返します。

これは、例年模擬試験で見られる傾向です。

二年生になり成績が落ち始まる

理由①高校生活に慣れて気が緩む。

②受験科目となる理社が本格的な内容になるので勉強量が追いつかない。

三年になっても学力低下が止まらない

理由①三年次は誰もが勉強をやり出すので、部活引退後にやり出しても、なかなか成果が現れない。

②現役生だけでなく、浪人生も受験し始まるため。

一年生の時と同じ生活リズム（家庭学習量）のままでは、今後、成績はどんどん落ちていく危険性を持っています。しかし、そこで最も怖いことは、**成績がどんどん落ちていく自分に気がつくことができないこと**です。

一年生の時よりも家庭学習量を増やすのは、とても難しいことです。よほど割り切った生活を心掛けなければできるものではありません。並外れた決意が必要です。

学校には、その学校独自の雰囲気があります。周りの人達が一年生の時と同じように生活しているから、自分もそれで大丈夫！と思っていませんか？桜が丘高校生全体がずるずる下がっていく中で、桜が丘高校生同士で比べても判るはずがありません。

全国の受験生と学力比べをしなければ、本当の事は判らないのです。大学受験は、全国の受験生と戦うのだから。

今月末実施のスタディサポートは基礎学力を調べるもの。どんな大学へ対応できる学力があるのか？は漠然とつかめる程度です。

二年生で大学の合格判定が出る模擬試験は、六月末に行われるベネッセ総合学力テストが最初です。しかし、結果が帰ってくるのは八月のお盆過ぎです。結果を見て、夏休みに勉強内容を修正する、という事はできません。**二年生前半に自分の学力を客観的に判断する機会はないということ**頭に入れておいてください。

前期中間考査で五教科で成果を上げることは当たり前。それでも全国的にはどんな学力なのかは判りません。※五教科の学力判断は、冬まで待たなければなりません。

一年次に思い描いていた大学へ進学したいなら、今までよりも自分に厳しく、可能な限り、受験に必要な科目の勉強時間を増やすこと！これに尽きます。

二年生になった今、生徒諸君のスタートダッシュに期待します。